高等学校

指導者

1 履修単位数 4 単位

2 実施日時 令和6年11月7日(木) 第3時限

3 学 級 2○HR(名)

4 使用教科書 Power On English Communication Ⅱ(東京書籍)

5 単 元 名 Lesson 5 Design for Connecting Society: Braille Neue

6 本単元で扱う領域における「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標(2年次)

聞くこと	読むこと	話すこと	話すこと	書くこと
, , , _		[やり取り]	[発表]	
紹介文や報告文、	日常的な話題や	日常的な話題や	日常的な話題や	日常的な話題や
対話などの日常	社会的な話題に	社会的な話題に	社会的な話題に	社会的な話題に
的な話題や社会	ついて、使用する	ついて、使用する	ついて、使用する	ついて、使用する
的な話題につい	語句や文、情報量	語句や文、対話の	語句や文、事前の	語句や文、事前の
て、一定の支援を	などにおいて、一	展開などにおい	準備などにおい	準備などにおい
活用すれば、話さ	定の支援を活用	て、一定の支援を	て、一定の支援を	て、一定の支援を
れた文章を聞い	すれば、書かれた	活用すれば、多様	活用すれば、多様	活用すれば、多様
て、必要な情報を	文章から、必要な	な語句や文を用	な語句や文を用	な語句や文を用
聞き取り、話の展	情報を読み取り、	いて、情報や考	いて、情報や考	いて、情報や考
開や意図を把握	文章の展開や書	え、気持ちなどを	え、気持ちなどを	え、気持ちなどを
したり、概要や要	き手の意図を把	複数の文で詳し	複数の文で論理	論理性に注意し
点、詳細を目的に	握したり、概要や	く話して伝え合	性に注意して詳	て複数の段落か
応じて捉えたり	要点、詳細を目的	うやり取りを続	しく話して伝え	らなる文章で詳
することができ	に応じて捉えた	けたり、論理性に	ることができる。	しく書いて伝え
る。	りすることがで	注意して複数の		ることができる。
	きる。	文で詳しく話し		
		て伝え合ったり		
		することができ		
		る。		

7 単元設定の理由

○教材観

本単元は、点字を生かしたユニバーサルフォントであるブレイルノイエについて、開発者の高橋 鴻介さんへのインタビューを通して取り上げている。言語材料としては、ブレイルノイエの利点や 活用方法について、情報や自分の考えなどを論理性に注意して話したり書いたりして伝えるために、助動詞+受け身、S+V+C [分詞]、S+V+O [if 節]、It seems [appears] + that 節が用いられて いる。本文を読んで、ブレイルノイエの利点や活用方法について理解する力を養うことができると ともに、ユニバーサル社会を実現するための糸口となる行動について、生徒に考えさせるきっかけ になると考える。

○生徒観

本学級の生徒の多くは、英語に対して、中学生の頃から苦手意識をもっており、中学校で学習した基礎的な内容が定着していない生徒も見られる。しかし、ペアワークやグループでの言語活動において、互いに教え合ったり、積極的に意見を出したりして、まじめに前向きに取り組んでいる。そこで、ワークシートや図・表・写真、ペアワーク等を活用して、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉え、自分の考えを話して伝え合う力を養うことを目指す。

○指導観

本単元は、ブレイルノイエというユニバーサルフォントについて取り上げている。そこで、言語活動として、本文を読み、ペアやグループでブレイルノイエの利点や活用方法を理解し、自分の考えを話して伝え合う活動を行う。また、本単元はインタビュー形式で本文が書かれている。そこで、単元終末の言語活動として、ブレイルノイエについて自分が理解した概要をもとにブレイルノイエを用いたオリジナル商品を作るために、ペアでどんな商品が欲しいかインタビュー活動を行う。その情報をグループで共有し、最終的にグループで商品を一つ作成し、全体でプレゼンテーションを行う。自分が読み取った内容をもとに、自分の考えを伝え合うことにより社会的な話題についてやり取りをする力を身に付けさせたい。

8 単元の目標

ブレイルノイエについてのインタビューを読んで概要や要点を捉え、読み取った内容をもとに、ブレイルノイエを用いたオリジナル商品を作成するために、自分の考えをペアで話して伝え合うことができる。

9 単元の評価規準(「話すこと[やり取り]」の評価規準)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〈知識〉 自分の考えを話して伝え合う ために必要となる語彙や表現 等を理解している。 〈技能〉 社会的な話題ついて情報や考 えを理由とともに話して伝え る技能を身に付けている。	様々な人にその商品を買いたいと思ってもらえる商品を作るために、ブレイルノイエの利点や活用方法などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、既習表現を用いて、複数の文で詳しく話して伝え合っている。	様々な人にその商品を買いたいと思ってもらえる商品を作るために、ブレイルノイエの利点や活用方法などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、既習表現を用いて、複数の文で詳しく話して伝え合おうとしている。

10 指導と評価の計画(10時間)

時間	ねらい (■)、言語活動等(丸数字)	評 価			備考
		知	思	態	加持
	■単元の目標を理解する。				・単元を通して学習
1	①点字とブレイルノイエについて知っていることを 話し合う。				の振り返りは適宜 行わせる。
	②ブレイルノイエについて情報を得るために教科書 の Part 1 を読む。	届け	- 产 i	- *	
	③教科書の内容に関する教師からの質問に答える。	て指導	に言金	こ 己 录	
	■ブレイルノイエに関するインタビューの要点を捉 える。	に生かす	を多う言	え浅け平野	
2	①教科書 Part 1 から Part 4 までのインタビュー記事を一続きで読む。	ことは毎時間行う。	11 だ え オ	こ桟け平田は亓つな	
\ 6	②教科書の内容に関する教師からの質問に答える。	間行う	V	0	
6	③インタビューで使われている表現を確認する。	· ·	, 1	こざく	
	④ペアで内容に関して意見を交換し合う。		ŧ	a	
	■ブレイルノイエが生まれた経緯や利点、活用方法などの要点をまとめる。		i 民 l	_ 1	
7	■ブレイルノイエを用いたオリジナル商品をつくる ために、どのような商品がいいかインタビュー活動 を行う。		子生後の治重さ	て上走り舌動	
(本 時)	①前時までで読み取ったインタビューの要点をペア でのやり取りを通してまとめる。		存気を	ど寉尾こ見	
	②インタビュー活動で使うことができる語彙を確認する。			t.	
	③①でまとめたものも参考に、ペアでどのような商品 がいいかをインタビューし合う。				
	■前時のインタビュー活動で得た意見をグループで 伝え合う。				
8	■グループで一つのオリジナル商品を考え、様々な人 に買ってもらえるように、プレゼンテーションを行 う。				
>	①前時でインタビューした内容をグループで共有し、				
9	そのインタビュー内容や本文内容を踏まえて、グル ープで一つのオリジナル商品を考える。				
	②その商品についてのプレゼンテーションをより伝わりやすいものにするために、商品ポップを作成したり、発表内容を考えたりする。				
L		l	1	1	1

10	①クラス全体に対し、グループで考えた商品について		0	0	
	発表する。				
	②各プレゼンテーション後に、提案された商品につい ての考えや質問を話して伝え合う。				
後日	ペーパーテスト	0	0		

11 本時の活動(第7時)

(1) 目標

ブレイルノイエの利点や活用方法を踏まえて、より様々な人が買いたいと思うブレイルノイエの商品を作るために、どんな商品が欲しいかやその理由をペアでインタビューをし、伝え合うことができる。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体の評価規準	評価方法
2分	 挨拶をし、1分間の スモールトークを行う。 	・時間内ずっと話し続けることができるように、参考になる語彙や相手に聞く質問の例を伝える。		
1分	2 本時の目標につい て知る。	・全員が前向きに活動できるような雰囲気をつくる。		
	To interview your pa	artner about what kind of a	Braille Neue prod	uct you
6分	3 前時までの復習をする。	・前時までのワークブックや ワークシートを参考にし、 ペアで確認し合うよう伝え る。		
3分	4 インタビュー活動 で使うことができる 語彙を確認する。	・Useful Expressions のシートを配布し、次の活動で使用できるようにする。また、発音練習をクラス全体で行う。		
15 分	5 自分が欲しい商品 を考え、インタビュー	・MetaMoJi ClassRoom に入 力させる。 ・Useful Expressions のシー		

	に答える準備を行う。	トを参考に、どのような質問が聞かれるか予測し、答える準備するよう伝える。	
15 分	6 ペアでインタビュ 一活動を行う。	・ペアでのやり取りをサウンドレコーダーで録音し、後日 MetaMoJi ClassRoom にアップロードしてもらうよう伝える。	
		・聞き手に聞き取ってもらい やすいようにはっきり話す よう伝える。	
		・MetaMoJi ClassRoom に相 手の答えをメモするように 伝える。	
		・いくつかのペアにクラス全体でインタビューをしてもらい、それに関しての考えや質問を伝え合う。	
3分	8 本時のまとめを行う。	・本時のまとめを行い、次時以降のプレゼンテーションに向けて、見通しがもてるようにする。	

[※]この学校では、授業時数の1時間単位を45分としている。

12 評価及び指導の例(「話すこと[やり取り]」)

「十分満足できる」と判断される状況(a)	ブレイルノイエに関する本文の概要や要点を捉え、それを踏まえ て自分はどんな商品が欲しいかを話して伝え合うことができる。
「おおむね満足できる」状況(b) を実現するための具体的な指導	相手からの質問に正確に答えたり、相手に対して適切な質問をしたりするために、事前に質問内容を例示することで、やり取りの内容を整理することができるよう支援する。
「努力を要する」状況(c)と判断 した生徒への事後指導	インタビューの準備をする際に、どんな質問をしたいか聞き取り、それを英語で伝える方法についてアイデアやヒントを与え、ともに考えながら練習させることで、「おおむね満足できる」状況(b)を達成できるようにする。